

あいさつ

当館は、令和五年度より愛媛県歴史文化博物館と協力して、西南四国の中世社会と公家に関する共同調査をおこなってきました。その成果を、愛媛県歴史文化博物館ではテーマ展、当館では企画展として、それぞれ「西南四国の中世社会と公家」と題し、展示いたします。

今回取り上げる西南四国とは、主に高知県の幡多地方と愛媛県の南予地方を指します。この地域は、これまでの先学の研究成果でも指摘されているように、中世において、中央（京都）の公家たちから注目されてきたことが明らかになっています。

また、中世は「武士の世」と表現されることが多く、公家の存在が少し見えづらいのですが、一条氏と西園寺氏は西南四国へ下向し在地の有力な勢力として、戦国期まで続いています。

古文書や寺社に残る歴史資料、発掘された出土資料を通じて、本展タイトルの「公家」という視点を据えながら、西南四国の中世社会を再認識していただく機会になればと思います。

元同志社大学教授（高知県史編さん委員会委員（考古部会長））の鋤柄俊夫氏^{すぎがら}には、展示内容において多くのご指導をいただき、また会期中には、講演会もお願いをしています。

末尾になりましたが、本展開催に多大なるご支援・ご協力を賜りました、各種団体・機関、そして資料所蔵者の皆様に厚く御礼申し上げます。

令和六年一二月一〇日

高知県立歴史民俗資料館

館長 竹崎 恵彦

目次

I 章 西南四国と公家

一節 中世京都の公家	6
二節 宇和荘と西園寺氏の伊予下向	11
三節 幡多荘と九条家・一条家	16

II 章 有力寺院と公家

一節 金剛福寺・香山寺と一条家	24
二節 等妙寺・齒長寺と西園寺家	29

III 章 地域領主と城郭

一節 宇和郡の諸領主と城郭	36
二節 一条家臣団と城郭	45
三節 南予の争乱	51
コラム 一条氏・長宗我部氏の南予進出の実態を考える	64
山内 治朋	

IV 章 公家が西南四国に求めたもの

特論一 海の国、土佐の源流を西南四国から探る	67
――鎌倉時代の京の覇者との関係をふまえ――	
特論二 一條教房の幡多荘下向と在地勢力	75
――『大乘院寺社雜事記』に見る幡多荘直務支配の様相――	
特論三 一条氏と南予地域の城郭	84
鋤柄 俊夫	
東近 伸	80
松田 直則	

資料解説	89
主な参考文献	111
謝辞	112